

文化学園大学

Bunka Gakuen University

文化服装学院

Bunka Fashion College

文化ファッション大学院大学

Bunka Fashion Graduate University

文化外国語専門学校

Bunka Institute of Language

Title	交流活動の意義を考える：留学生と小学生との交流活動の報告
Author(s)	白岩, 麻奈
Citation	文化外国語専門学校紀要 25(2012-02) pp.9-33
Issue Date	2012-02-01
URL	http://hdl.handle.net/10457/1256
Rights	

交流活動の意義を考える

—留学生と小学生との交流活動の報告—

日本語科 専任講師 白岩麻奈

(2011.9.1 受)

要 旨

本稿は、本校日本語科で 2007 年度から 2010 年度まで行ってきた、留学生と小学生との交流活動についての実践報告である。交流風景の観察や参加者のアンケートから、交流活動は留学生にとって日本人と日本語を話す場を得るだけでなく、様々な意義があることがわかった。

<キーワード> 交流活動 多文化共生 異文化間交流 異文化理解 教室外活動
交流の意義 コミュニケーション力

1. はじめに
2. 交流活動の記録
3. 2010 年度の実践報告
 - 3-1. 目標の設定
 - 3-2. 事前準備
 - 3-3. 小学校訪問
 - 3-4. 訪問後のアンケートより
 - 3-4-1. 留学生からの感想
 - 3-4-2. 小学生からの感想
 - 3-4-3. 小学校の先生からの感想
4. 考察
 - 4-1. 日本語教育における意義
 - 4-2. 学校教育における意義
5. おわりに

謝辞
注
参考文献
資料

1. はじめに

本校では2007年度から4年にわたって計5回ほど、杉並区立堀之内小学校を訪問し、小学生との交流の時間を持ってきた。この交流会を始めたきっかけは、2007年度に本校の日本語科において通常のレベル別の授業とは別に、いくつかのテーマの中から学習者自身が興味のあるものを選択し、参加する「選択授業^{※1}」を始めることになり、そのテーマの一つとして、外部の日本人と交流する授業活動が設けられたことである。その授業活動では、外部の日本人学生や社会人を本校に招きおしゃべりするという活動など、いくつかの交流プログラムを当時の担当教師が計画しており、同時に交流相手を募集していた。そこで、筆者の子供が通う小学校に依頼したところ快く受け入れられ、小学校を訪問し、3年生と交流を持つことが実現することになった。そして、その後も3年生または4年生との交流会が毎年行われている。本校ではこの活動を始める以前も、日本人学生を呼んで、授業に参加してもらい意見交換をしたり、放課後日本人学生とおしゃべりする時間を設けたり、系列校である高校を訪問して、高校生と交流するなどの活動をしてきたが、筆者自身が一つの団体との交流活動を継続して担当したことはなかった。そこでこれまで行った、小学生との交流会の実践報告をすると共に、異文化間交流、多文化共生の重要性が叫ばれる今、日本語を学ぶ留学生にとってこのような活動がどのような意味を持つのか、今までの活動を振り返り、改めて意義を考えたい。

2. 交流活動の記録

ここでは、2007年度から2010年度まで4年間5回にわたって行った小学校訪問の概要をまとめ、2010年度に行った交流活動については、次の項でその詳細を報告する。

① 2007 年度

実施日：2008 年 2 月 21 日

選択授業の科目の一つとして、日本人との交流を目的とした授業活動を行い、
その中の交流活動の一環として実施

参加留学生：台湾、韓国、中国、インドネシア、フィリピン、ペルー、インド、
ウガンダ、ベナン、カナダ、ブラジル、モンゴル、計 12 か国、
選択授業として日本人との交流を選んだ学習者 33 名

留学生の日本語レベル：初級終了程度から上級

本校担当教師：選択授業担当教師 3 名

参加児童：杉並区立堀之内小学校 3 年 1 組・2 組計 75 名

内容：小学生による歓迎の言葉や歌。小グループに分かれ、小学生自作紙芝居に
よる昔話の発表とおしゃべり

② 2008 年度 1 回目

実施日：2008 年 12 月 16 日

小学校側の要望により、昨年度交流会に参加した 4 年生になった児童と、筆者
が担当していた上級クラスの学習者との交流

参加留学生：アメリカ、インド、インドネシア、カナダ、シンガポール、
スウェーデン、タイ、ドミニカ共和国、ラオス、韓国 台湾 中国、
計 12 か国、日本語科 1 組・2 組・3 組の学習者 50 名

留学生の日本語レベル：上級

本校担当教師：1 組・2 組・3 組担当教師 3 名

参加児童：杉並区立堀之内小学校 4 年 1 組・2 組計 75 名

内容：小グループごとに小学生による学校案内、留学生による国の紹介、日本の
昔の遊び体験など

③ 2008 年度 2 回目

実施日：2009 年 1 月 27 日 選択授業の科目の一つとして実施

参加留学生：インド、インドネシア、ケニア、シンガポール、タイ、ミクロネシア、
ラオス、韓国、台湾、中国、計 10 か国、選択授業として日本人と
の交流を選んだ学習者 37 名

留学生の日本語レベル：初級終了程度から上級

本校担当教師：選択授業担当教師 2 名

参加児童：杉並区立堀之内小学校 3 年 1 組・2 組・3 組計 71 名

内容：小学生による歓迎の言葉や演奏。小グループに分かれ、留学生による国の紹介。途中グループを交替し、複数のグループと交流。訪問後手紙の交換

④ 2009 年度

実施日：2010 年 2 月 2 日 選択授業の科目の一つとして実施

参加留学生：アルゼンチン、インド、カナダ、パプアニューギニア、バングラデシュ、フィジー、フィリピン、モンゴル、カンボジア、シンガポール、スウェーデン、韓国、中国、台湾、計 14 か国、選択授業として日本人との交流を選んだ学習者 40 名

留学生の日本語レベル：初級終了程度から上級

本校担当教師：選択授業担当教師 2 名

参加児童：杉並区立堀之内小学校 3 年 1 組・2 組・3 組計 85 名

内容：小学生による歌と踊り、小グループごとに学校案内と留学生による国の紹介、雪合戦、皆で GReeeeN の『キセキ』唱和

⑤ 2010 年度

実施日：2011 年 2 月 8 日

筆者が担当していた上級クラスの学習者との交流

参加留学生：ベトナム、インドネシア、タイ、チュニジア、韓国、台湾、中国、計 7 か国、1 組・2 組・3 組の学習者 49 名

留学生の日本語レベル：上級

本校担当教師：1 組・2 組・3 組担当教師 4 名

参加児童：杉並区立堀之内小学校 3 年 1 組・2 組計 62 名

内容：次の項で報告

3. 2010 年度の実践報告

2で述べた交流会のうち⑤について、その目標と計画、実施内容などを報告する。

3-1. 目標の設定

対象となる学習者は、上級学習時であること、訪問するのが卒業前ということこれまで学習し身に付けてきたことを発揮する良い時期であること、この経験を卒業以降にも生かしてもらいたいと考えたことなどから、担当教師間で相談し、目標を以下のように設定した。

<目標>

- ①小学生との交流を楽しみ、お互いにいい思い出を作る
- ②人の役に立つ喜びを知り、人と触れ合う喜びを感じ合う
- ③自国の文化を聞き手にわかりやすく、紹介することができる
- ④今まで学習した様々な表現法を使って、相手を飽きさせず話することができる
- ⑤うまくいったこともいかなかったことも含め、新たな目標を得る
- ⑥日本の小学校や子供たちについて知る

①は、どのレベルの学習者においても、相手が誰であっても、同じ時を過ごすのであれば当然目標になることであろう。②は、留学生は異文化という慣れない環境で生活しているため、常に何らかの不安を感じながら過ごし、受け身の生活または精神状態にある人が多いと思われる。しかし、この交流活動のように異文化を学習したいという小学生にとって、外国人であることがメリットとなり、それを提供することで相手にも感謝されるという経験をするようになる。こういった経験をすることで、自信を持ち、異文化に身を置くことを前向きにとらえてほしいという思いから設定した。③④は、参加者が上級学習者であることから、これまでの学習を踏まえて設定した目標である。本校では、初級から中級、上級に至るまで一貫して、わかりやすく^{#2}表現することの重要性を説いている。作文であっても意見を述べる時であっても、伝える対象がいる限り、自分だけがわかる表現の仕方ではなく、言いたいことが相手に伝わる表現の仕方をしないと意味がない。その点、今回の相手は小学生という一般的に飽きやすく、わからなくてもお

となしく黙って聞いていてくれる相手ではないという点で、難易度が高いと思われる。だからこそわかりやすい日本語で表現する、魅力的な資料を準備する、笑顔で問いかけながら話しかけるなど、これまで学習してきた表現方法を駆使して、自分が会話のイニシアチブをとってやりとりすることを目標とした。⑤は、交流活動を終えた後、当然感想や反省が生まれるであろう。中には、うまくいかなかったと思う者もいるかもしれない。しかし、その感想のどれもが今後生きていく上で役に立つ経験であり、卒業後も日本語を何らかの形で学習していつてくれるであろう学習者にとって、新たな目標につながるのではないかと期待し、設定した。最後に⑥であるが、国を問わず現代の若者の多くは、子供と普段触れ合う機会があまりないようだ。また現在は、安全上の理由で小学校に外部の者が入ることは難しく、実態が見えにくくなっている。そういったこともあり、外国人留学生にとって日本という異文化に住む現代の子供は、何を考えているかわからない、こわい、かわいげがないと映るかもしれない。小学校に実際に入ることで、その施設を見学し、子供たちとの触れ合いを体験し、実状はどうか、新聞記事やニュースなどで問題が取り上げられる小学校、小学生の通りなのか自分の目で見て確かめてほしいと考えた。

3-2. 事前準備

この交流活動にあてた授業は、準備に1.5 コマ（1コマ50分）、訪問に2コマ、訪問後のフィードバックに0.5 コマである。以下が訪問準備のための授業計画であり、ほぼ予定通りに行われた。

＜準備① 1月28日（金）5時間目 1組・2組・3組合同授業＞

0. あらかじめ教師が作っておいたグループ^{※3}ごとに座るよう指示する
1. プリント（資料1）を配布し、目標や予定の説明（日程、当日の流れを簡単に）をする
2. 自分が小学生の頃のことをグループで話しながら、思い出させる
3. 小学校の教科書、学習雑誌、時間割などを使って、日本の教育制度、授業科目を説明し、小学3年生が興味を持っていることを想像させる

4. これからの予定の詳細について説明する
 - ・説明用パネルの作成などの準備をいつまでにするか
 - ・当日の集合時間や流れについて
5. 説明用パネル作成
 - ・小さいグループ(留学生3、4人+小学生4人程度)になって、国の文化や言葉を紹介する時間があるので、それぞれ何を紹介するか決め、パネルにポイントをまとめる。自己紹介は必ず入れるよう指示。
 - ・同じグループの中に同国人がいる場合は、テーマや言葉がなるべく重ならないようにする
テーマの例：国の遊び、着るもの、食べ物、文字、歌、地理や気候、有名な観光地、お祭りなど
言葉の例：こんにちは、ありがとう、さようなら、おいしい、友達など
 - ・来週のH.R.(金曜日の5時間目)までに完成させる
6. 訪問時の予定と注意
 - ・交通費の説明
 - ・マナーや肖像権について確認
7. 終わりの挨拶をする人募集

<準備② 2月4日(金) 5時間目の0.5コマ(約30分)、各教室で>

- ・宿題になっていたパネルの完成を確認する
- ・まだの人は引き続き作業
- ・できた人は、違う国の人にわかりやすく説明する練習をする
- ・当日の集合時間など再度確認

準備①の授業では、まず自分が小学生の時のことを思い出させたり、今の日本の小学生が興味を持っていることを知るために教科書や学習雑誌を見せたりしながら、交流相手である小学生についてイメージできるようにした。また、イラストや地図、写真などを使った説明用のパネルの例を見せながら、準備を丁寧にす

ることによって、飽きやすい子供の興味をひきつけつつ、自分が話のイニシアチブをとって生き生きと説明でき、それが目標の達成につながることを強調した。学習者の中には、早速学習雑誌の中から小学生が興味を持ちそうなキャラクターのイラストをかいいたり、教科書や問題集を見て、小学生が読めなさそうな漢字に振り仮名を振ったりと、工夫する姿が見られた。説明用パネルには、必ず自分の紹介を書くように指示したが、それは、国の紹介といっても小学生にとっては「あのお兄さんのあの国」、「あのお姉さんが育ったあの国」という認識になるであろう。そのため留学生自身のイラストや趣味、日本語学習の動機、将来の夢など個人的なプロフィールを話すことによって、まずは個人として仲良くなってほしいと考えたからである。学習者もそのことを理解し、絵は苦手だと言いながら、簡単な自画像をかいいたり、色を塗ったりと工夫していた。説明用パネルの作成は授業内では時間が足りず、ほとんどが宿題となってしまったのだが、学習者は卒業前の忙しい時期であったにもかかわらず、授業外の時間にパソコン教室で写真を探したり、きれいにパネルをデコレーションしたりと準備していた。

準備②の時間では、完成させたパネルを持ち寄り、説明の練習をしたが、他の学習者のパネルを見て、良いところをまねしながら自分の物に手を加え、より良くしようとしたり、お互いに話し方をアドバイスし合うといった姿も見られた。

3-3. 小学校訪問

2月8日(火)午後12時50分頃学校を出発。13時40分から小学校の5時間目、6時間目と帰りの学活の時間を使い、15時15分まで交流を行った。交流会の流れは以下の通り。

- ①小学生による歓迎の言葉とリコーダーの演奏
- ②グループに分かれ、小学生による学校案内
- ③留学生による国の紹介
- ④(時間があるグループは)日本の伝承遊びをいっしょにする
- ⑤クラスみんなで「だるまさんが転んだ」の遊び
- ⑥お礼のあいさつと写真撮影をしてお別れ

現在小学3年生の授業では、今回のような授業は「総合的な学習」の一環として行われることが多いようである。この年度の3年生は、「世界の人と触れ合おう」

というテーマで、「さまざまな国の人とふれあい、その暮らしぶりや文化を知る」「日本語のコミュニケーションを通して、表現する力を育てる」「自分たちの出し物を留学生の方に楽しんでもらい、役立つ楽しさを知る」ということをねらいにしていた。合計8時間かけてこの交流活動に取り組んでおり、我々が小学校を訪問する前に、留学生の国々の文化や暮らしぶりについて知っていることを話し合う、知りたいことを本やパソコンで調べる、学校案内の内容や順序、歓迎の歌や言葉を準備するといったことを5時間かけて行い、2時間交流した後、交流してわかったこと、感じたことをまとめるのに1時間とったそうである。このように小学生もねらいを理解し、目的意識を持って、主体的に準備をしてあったため、当日は非常に充実した交流会となった。

②③④は留学生3、4人と小学生4人程度の小さいグループに分かれ、3年1組が学校案内をしている間、3年2組は留学生が文化紹介をするというふうに順次行った。グループのメンバーは最後まで入れ替えることなく行ったので、1時間半程度同じメンバーで行動することになり、互いに親しくなったグループも多く見られた。なるべく多くの人と交流できるように、または間が持たなくなると困るといった理由で、これまでの交流会では途中でグループを何度か変え、様々なグループで交流をしたこともあるが、今回のように最初から最後までじっくりと付き合うと、次第に親しくなり、小学生としてもその国について理解が深まるという良さがある。

④⑤のようにいっしょに遊ぶという経験は、2008年度1回目の4年生との交流会でも行った。その際折り紙やおはじき、けん玉、おてだま、ゴムとびなどをグループごとにやったのだが、一つのことをいっしょに行うという作業の中でお互いにアドバイス合ったり、褒め合ったりしながら一体感が得られ、非常にいい雰囲気になったと感じた。今回行った「だるまさんが転んだ」は、大人数で行ったため、2008年度のような一体感はあまり得られなかったかもしれないが、中には仲良くなった留学生の手を取って遊ぶ小学生の姿も見られ、遊びなどの作業を通じて楽しい時を共有するという体験は、お互いの距離を縮めるのに効果的で、非常に有意義であると感じた。

3-4. 訪問後のアンケートより

訪問後、留学生にアンケート（資料2）を行い、感想や目標の達成について意見を聞いた。^{注4} また、小学校の先生にお願いし、小学生全員にアンケート（資料3）に答えてもらい、先生方にも感想を伺った。

3-4-1. 留学生からの感想

①訪問前の気持ち

参加した留学生のうち、小学校を訪問する前、「楽しみ」「期待している」と思っていた者はごく少数しかおらず、ほとんどが不安や心配を感じていた。その理由としては、「子供がもともと苦手」「子供と触れ合う機会が普段ないので緊張する」「子供が何を考えているかわからないからどんな話をすればいいかわからない」といった、現代の日本の若者にも通じるであろう、普段子供と触れ合う機会がないことからくる理由が主であった。また、「自分の日本語が通じるか自信がない」「自分の国のことに興味を持ってくれるか不安だ」といった、外国語である日本語で外国人とコミュニケーションすることに対する不安もあった。相手が子供なので、わかりやすく、楽しく話さないと聞いてもらえないという目標を強調したのも要因の一つになったかもしれない。この時の学習者は、選択授業として自ら交流活動を選んだ学生ではなく、上級のカリキュラムに入れてあり全員行くことが必須だったので、モチベーションとしては低かったかもしれない。事前に、小学校の頃のことを思い出したり、小学生用の教材を見せたり、間が持たない時にどんな話題で話せばいいか考えておいたり、様々な準備をしておいたのだが、それでも不安を抱えて緊張して出かけたことがわかる。このように訪問する側の学習者にとっては、精神的に負担の大きい活動であることを理解した上で、導入や準備を行うことが今後必要であろう。

②小学校の印象

日本の小学校について、実際に内部に入り、小学生に案内してもらいながら見ることによって、様々な気付きがあったようである。まず施設については、音楽室、理科室、パソコン教室、図書館、ミシンなどのある家庭科室などを見て回り、教科や教育内容に合った施設や設備があることに驚いたり、感心したりした者が

多かった。上履きに履き替えることで校内がきれいに保たれていて良いと観察する者や、校長室での校長先生と小学生とのやりとりを見て、校長先生を恐れておらず、国よりも親しい間柄であると驚きを感じた者もいた。また、校庭にあるシンボルツリーや、校舎の形がワニに似ていることからワニが学校のキャラクターとして愛されていることなどを聞き、子供たちが自分の学校に愛着を持って誇りに感じていることを新鮮に感じた者もいた。漫画やアニメで見たのと同じような学校風景であると感激し、実際にそこに入ることができたと喜ぶ者もいた。

さらに、施設だけでなく日本の教育について国との相違点を挙げ、感想を述べる者も多かった。屋上で草花を育てていることや、その植物を使ってジャムを作るといった学習をしていることを知りおもしろいと感じたり、教室や廊下に掲示してある子供たちが作成した本や書道などを見て、多面的な学習が行われていると感じた者もいた。自分たちが小学生の頃より自然に触れる機会が多く、それを良いことだと感じている者も多かった。いずれにしても学校の内部を見ることによって、「小学生の生活がわかった」「子供の頃のことを思い出して懐かしかった」などと皆楽しんでいただようだ。それは、ただ見学するのと違って、小学生自身が案内する内容を決めて、丁寧に説明してくれたことから感じられた印象であったと思われる。

③小学生に対する印象

行く前は子供が苦手だと言っていた者が多かったのだが、交流した後の感想としては、全員が小学生に対し好印象を持ち、「今まで苦手だったが印象が変わった」「子供が好きになった」という意見もあったほどだ。その理由としては、「かわいい」「素直」「優しい」「礼儀正しい」「元気で活発」「笑顔で迎えてくれた」などが多かったが、中には「マスコミで見るとような問題は感じられなかった」と客観的な感想を述べた者もいた。また、学校案内や自分たちの説明を聞く時の印象を挙げ、「緊張しながらも一生懸命案内してくれた」「丁寧に説明してくれた」「十分準備してくれたのがわかってうれしかった」などと、交流会までに小学生が主体的に迎える準備をしてくれていたことに感激している者が非常に多かった。さらに、いっしょに日本の伝承遊びを体験した時の印象をあげ、「今の子供たちもゲーム機やパソコンでする遊びだけでなく、昔ながらの遊びも楽しくするのを見て、純粋だと思った」という感想を持った者もいた。

④国の紹介をした感想

前述の通り、小学生たちが事前に留学生の国について調べ、興味や知識を持って聞いてくれたので、皆話しやすかったようだ。「興味を持ってくれありがたかった」「思っていたより自分の国についてよく知っていたのでびっくりした」「いろいろ質問してくれた」「国の言葉を教えたなら覚えて使ってくれた」「説明したことによって『へえ』『すごい』などと反応してくれてうれしかった」と喜んでいて。

説明の仕方について気づきを得た学習者も多かった。小学生の集中力を維持させるのが難しいと感じた者も若干名いたが、「やはり絵や写真で説明したのはよかった」「なるべく簡単な言葉を使って説明したのでわかりやすかったようで喜んでくれた」などと準備の段階で工夫したことがうまくいったと自信を深めた者が多かった。また、「食べ物話が一番盛り上がった」という意見が複数あり、子供たちにとって「食」が身近なテーマであることがわかったようだ。

⑤今後の交流活動への意欲

このような交流活動に今後も参加したいか聞くと、一人を除いて全員が参加したいと答えた。「何回も参加したい」「ぜひぜひ参加したい」という積極的な声も少なくなかった。参加したくないと答えた一人は、「今回の交流は楽しかったが、自分は情が厚いので、仲良くなった人との別れがづらいから」という理由であった。

交流するならどんなことをしたいか聞くと、「いっしょにごはんを食べたい」「もっと長い時間遊びたい」「おしゃべりしたい」「授業風景を見てみたい」「授業に参加したい」「自分の国の遊びも紹介していっしょにしたい」「スポーツや絵をかくなどのいっしょに何かをする活動をしたい」などの意見があがった。また、小学生以外との交流に意欲を見せる者もあり、「老人ホームを訪問したい」「同じ年頃の若者と交流したい」「中高生とも交流したい」という声があった。

3-4-2. 小学生からの感想

小学生に交流会の前の気持ちはどうであったか聞くと、留学生ほどではないものの「恥ずかしかった」「留学生にあったことがないのですごく緊張した」「ドキドキした」など不安を感じていた子が3分の1程度いたが、その他は「ワクワクした」「うきうきした」「楽しみだった」と、新たな出会

いに期待していた子が多かったようだ。

交流会を終えての感想は、「楽しかった」「またしたい」「最後、別れがなかった」と満足している様子がうかがえた。さらに「学校を案内した時喜んでくれたのがよかった」「『そうなんだあ』みたいな顔をしてくれてとてもうれしかった」「学校のいろいろなところを案内できて自分もうれしかった」「学校のいいところがたくさん見せられたと思う」「正直伝わらないと思ったけど、伝わってうれしかった」「緊張したけど、『だいじょうぶ?』『緊張しないで』とか言ってくれたのでなんとか言えた」と達成感を感じている子も多かった。

また、異文化と触れ合ったことで受けた印象について述べた感想もあった。例えば、「留学生の国に行きたくなくなった」「いろんな国の料理が違って不思議だなあと思った」「その国の料理が食べたくなくなった」「知らない国のことがわかってよかった」「留学生の国の言葉を教えてくれてうれしかった」「普段外国の人と触れ合うことはめったにないので、いろいろ外国のことを教えてもらってありがたかった」「この経験を生かして勉強をがんばります」といったものだ。

留学生の話し方や接し方についても多くの感想が寄せられた。例えば「自分が説明している時、静かに聞いてくれてやさしかったのでうれしかった」「わかりやすく紹介をしてくれたのでよかった」「学校案内をした時、留学生の人が質問などをしていて、いい質問をしているなど思ったのですごくいいと思った。紹介をした時はだんだん紹介をしやすくなった」「前から友達になっていたように話してくれたからうれしかった」「聞き取りが早くて、すぐに場所や名前を覚えてくれた」「とてもよく話を聞いてくれて、うなずいてくれたり、『そうなんだ』など話したことに反応してくれてうれしかった」「説明の紙に絵や言葉、写真などがあつたし、説明もくわしかった」「留学生は笑顔だったので心が楽しくなった」といったもので、改めて留学生のコミュニケーション力が確かなものであることに筆者も気づかされた。

また中には、「次は自分も日本のいいところを紹介したい」と、今後への意欲につながっているととれる感想や、「『だるまさんが転んだ』をした時に恥ずかしくて自分から手をつなげない時に台湾からきたお姉さんが手をつないでくれたのがすごくうれしかった」といった微笑ましい感想もあった。

た。子供たちの気づきから、人と人とがコミュニケーションする上で大切なことを教えられる思いである。

次はどんなことをしてみたいかという質問に対しては、圧倒的に校庭、体育館、屋上などで遊びたいという意見が多かった。1時間半程度という時間では遊び足りないと感じた子が多かったようだ。「手紙の交換がしたい」「いっしょにゲームやスポーツをしたい」「いっしょに絵をかきたい」という声もあった。その他、「留学生の国の遊びをしたい」「踊りや歌を歌ってくれたらうれしい」といった留学生の国についてもっと知りたいという気持ちが表れたものや、「日本のことも教えて、もっと仲良くなりたい」「日本の手遊びや歌などを教えて、日本のことをたくさん知ってほしい」「町を紹介したい」「授業の雰囲気も見てもらいたい」というふうに、自分も町や国のことを紹介したいと感じた子もいた。学校案内をして留学生に喜んでもらったことから自信と喜びを感じ、また留学生の自国の紹介を聞いたことで自分も自分たちのことを紹介したいという意欲につながった子が多くいたようだ。

3-4-3. 小学校の先生からの感想

この度、小学校でご指導いただいた担任の先生方からも意見を伺うことができた。先生方は小学生がこのような交流会を持つことは、「初対面の人とコミュニケーションをとり仲良くなるという体験が有意義である」「国の紹介を聞くことによって近隣の国に親近感や興味を持つことにつながり教育効果は高い」「国籍の違いを感じず国の枠を超えて親しくなることができる」「日本とは異なる文化に興味を持ち親しむことができる」などの理由で有意義であると評価してくださった。

感想として、「留学生がフレンドリーで進んで子供と関わろうとしてくれたため子供たちもリラックスして活動することができよかった」「子供たちの楽しそうな様子を見てうれしかった」などと答えてくださった。置き土産として渡してきた国の紹介のパネルは、交流会の後廊下に掲示してくださり、他の学年の児童も見て勉強になっているということだ。また、留学生のマナーや話し方についてもほめていただき、「子供たちの目には『やさしいお兄さん、お姉さん』のように映っていたようで、子供たちにとって

そういった意味でもよい勉強になった」「留学生と遊ぶことなど、ただいっしょにいただけで子供たちの人生や考え方により影響を与えるのではないか」という感想もいただいた。

さらに、留学生が学校教育の役に立てるとすると、他にどういった活動があるかという質問には、「ある国に絞って、料理、歌、伝承遊びなどテーマを決め、体験学習のゲストティーチャーになる」「言葉を習ったり、遊びを教えてもらうなど一つのことをじっくり行う」などの提案もいただいた。おおぜいの留学生が学校を訪問することには多少なりとも難しさがあるのではないかと予想していたが、先生方は「問題は感じなかった」「これからも継続して来てほしい」と心強い回答をくださった。我々が目標にしていたお互いにいい思い出を作り、人の役に立つことを体験するということが実践できたようで、うれしい限りである。

4. 考察

3-4で述べたように、互いに評価の高い活動であったが、それはどうしてなのか、交流活動の意義について留学生と小学生のそれぞれの立場から考える。

4-1. 日本語教育における意義

日本語学習者がこのような交流会に参加する際には、教室での教師や留学生間以外の日本人と日本語を使う機会を得、それが日本語の上達につながることを期待しているのではないかと筆者は考えていた。実際、教科書にはない生の日本語に触れることができたり、授業で耳にする以上の速いスピードでの会話につかることで勉強になる面もあるだろう。しかし、今回行ったアンケートからは、日本の学校教育や学校の設備、小学生のことがわかって勉強になったと答えた者はいたが、日本語の勉強として役に立ったという感想を述べた者はいなかった。むしろ小学生のほうから、わかりやすく説明してくれた、相槌やうなずきを入れながら聞いてくれたことで話しやすかったと留学生のコミュニケーション力に感心するコメントが寄せられた。これは、どういうことなのだろうか。

留学生は、普段限られた語彙、表現で学習者間や日本人とやりとりをしているので、日常的にその中でどのように表現すれば相手に誤解なく、わかりやすく伝

えることができるのかということに注意を払っており、自然とコミュニケーション上の訓練を積み、技術を高めることになっているのではないだろうか。したがって、その技術を使ってコミュニケーションすることで、相手に喜ばれ、自信や意義を感じることこそ、留学生側の大きな収穫と言えるのではないかと考える。さらに、今回のように聞き手が積極的に自国に興味、関心を示してくれれば、そのことにも喜びや意義を感じるであろう。

また、誰かの役に立つということが、普段外国で受身になりがちな留学生にとって、自信を回復させ、有意義な経験となるのではないだろうか。2011年の震災においても外国人ボランティアの活躍がいくつも報告されており、こういった人の役に立つ経験が、異文化で暮らす際の自身の生きがいや心の支えになることもあるという^{註5}。交流を経験した留学生たちも、この自信と経験が今後の人生において生かされることを期待する。

それでは、日本語教育の内容として我々教師は、交流会を催し「いい思い出を作る」場を学習者に提供するだけで十分なのだろうか。筆者は交流会に限らず、このような教室外の活動をより多く取り入れ、それを日本語教育に生かすことが必要なのではないかと考える。横田（2005）は、日本語教育を教室活動の中だけとするのではなく、ホームステイなどの教室外活動を教室内の授業と関連させ取り込む試みを、「単にある個人の『珍しい』授業とみるのではなく、日本語教育および異文化間教育のプログラム全体の中に体系的に組み込めば、教室の内と外の全体をカリキュラム設計するという新しい視点からの試みが実践できる」ものにとらえている。そのように、今回のような小学校を訪問するという交流活動も一義的なものに終わらせず、その後教室で、感じたこと、考えたことを深め合う、疑問点を出し合い意見交換する、うまくいったこと、いかなかったことなどを出し合い、より良い方法や技術を獲得するなど生かすことが大切なのではないだろうか。

また、横田（2004）は、日本語教育そのものが異文化適応教育としての要素を持っていることを指摘し、「物理的な意味での『日本語教室』を出て、再び『日本語教室』に帰ってくるまでの時空間は、実は学習者にとっては生活場面と学習場面が渾然一体となった学習環境」なのであり、「この体験全体を日本語の学習過程として明確に位置づける『日本語教育』があってもよいのではないか」とも述べている。また、「留学生が現場に分散的に存在する多様な情報や経験を総合

して全体的状況を把握し、そこに自分自身を位置づけていけるような機会（ホームステイなど）を提供することは、望ましい異文化適応教育であり、そこで実際に必要な意味のあるコミュニケーションを行う中で実践的に日本語も獲得されていく」と言い、「教室に重きが置かれる授業だけではなく、現場に重きが置かれた授業を挟み込むことが効果的ではないか」と述べている。さらに、「日本事情教育」としても日本の社会や政治などを取り上げて基本的な知識を与えるという内容だけでなく、教室外での体験について持ち寄り議論するような内容も考えられると指摘している。

つまり、交流会のような教室外活動は、イベントとして、または校外学習の一種として行うだけではその効果を生かし切れておらず、その経験の前後も重要であり、そこから得た疑問や学びを共有し合う場として教室を生かすべきだと考える。今まで筆者が行ってきた交流活動ではそこまで掘り下げて、活動の意義を認識しておらず、十分その効果を生かしていたとは言えない。今後、教室外活動の幅をより広げられるか模索しながら、行う場合は目標を立てる段階からその意義を念頭に置き計画を立て、その後の気づきや学び合いにつなげていきたい。

4-2. 学校教育における意義

今回のアンケートにより、小学校教育としても留学生と触れ合う利点があることがわかった。筆者の考える主な意義をまとめると、

- ・学習した歌や楽器の演奏、学校案内などをするによって、人の役に立ち、喜んでもらえるという経験ができる
- ・調べ学習のテーマとして興味を持って学ぶことができる
- ・世界に目を向けるきっかけとなり、今後の学習や興味につながる
- ・留学生が外国語である日本語を使っているのを見て、外国語学習のモチベーションを高めることができる
- ・日本にいながらにして、外国の生の情報を直接得ることができる
- ・人生の先輩である年長者と出会い、共に学び、遊び、楽しむことができる
- ・学校の紹介をすることで自分の学校や地域、国に誇りが持てる

となる。

林原（2011）は、小学校高学年の国際理解に関する興味・関心に影響を及ぼす要因を異文化接触の経験から検討しており、調査の結果、その因子として、「地

地球的課題」「外国語」「国際交流」「異文化体験」の四つを挙げ、それらが高次因子「国際理解」を構成していると言っている。そして、このことから「小学校高学年の興味・関心には『外国語』が単独で存在するのではなく、『地球的課題』や『国際交流』『異文化体験』への興味・関心とも関連している」ことを明らかにし、「外国語活動」を行う際には、「他の国際理解に関する学習と関連づけてカリキュラムを開発することで、より効果を高めるのではないか」と予想している。今後、新学習指導要領のもとで、小学校における外国語教育の重要性が増していくと考えられるが、その際にも単に外国語を習う時間を作るばかりでなく、こういった交流活動、異文化理解の体験と組み合わせることによってその効果が増すものとする。

5. おわりに

今回交流の感想として小学生からも留学生からも「相手が自分を迎える準備をしてくれていた」「自分を受け入れてくれてうれしかった」という意見が多くあがり、このことが喜びとなり、意欲を生むことを目の当たりにした。また、「人の役に立つ喜び」を感じることが自分の自信となり、成長につながることも学んだ。

異文化間交流には、人と触れ合う時の基本、大切なことがつまっており、それは多文化共生社会へと移行しつつある現在の日本社会においても必要なことだと言えるのではないだろうか。そういった意味でも、これからの世の中を担う留学生や子供たちがこのような経験することは有意義であると考えている。また筆者自身、留学生たちが日本で発揮できるであろう秘められた可能性を改めて認識するなど様々な気づきを得た。異文化間交流は、そこに関わる教育関係者にとっても学びの宝庫であり、我々日本語教師に、日本人に求められることがそこから浮かび上がってくるように思えてならない。そのことに思いを馳せつつ、今後もより良い教育活動を模索していきたい。

謝辞

2007 年度以降毎年本校留学生を快く受け入れてくださっている杉並区立堀之内小学校の教職員の皆さん、特に初めての受け入れにご尽力いただいた椎野祐子先生に心より感謝申し上げます。留学生の国籍がアジア中心になると話した際、「人間でもまずお隣に住んでいる方から仲良くなる。国も同じで、まず近隣の国から知り、互いに学び合うことが大事だ」という話をしてくださり、子供たちにもそのようにご指導くださっている。アンケートには、同校、椎野祐子先生と白井千晴先生にご協力いただいた。また、本校での初めての選択授業において、交流活動を企画、運営した武田緑氏、平川奈津子氏をはじめ、その後小学校を訪問するにあたり、共に準備、実施した、西村学氏、廣田周子氏、白石麻子氏にも心から感謝申し上げます。最後に共に楽しい時間を過ごすことで、様々な気づきを与えてくれた堀之内小学校の子供たち、本校の留学生たちに深く感謝を表する。

注

- (1) 本校における「選択授業」とは、2007 年度から日本語科で始められた授業活動で、レベル別に行う通常授業とは別のクラスで、いくつかのテーマの中から学習者自身が興味のあるものを選択し、学習する授業である。初級終了程度から上級レベルの学習者が混在するクラスで1週間に2コマずつ計6コマかけて行っている。授業の内容は体験型のものが多く、2010 年度の選択授業の科目は、小学生との交流の他に「手作り写真集作り」「浴衣 de ファッションショー」「初めての編み物」「茶道&書道」「料理」「色鉛筆スケッチ」「張子にトライ!」「地理と方言」「日本の魅力」「ポシェット作り」があった。講師は本校教師の他、外部の先生にお願いする場合もある。
- (2) ここでいう「わかりやすさ」とは、発表や意見交換をする際に、単に正確な日本語で表現するということだけでなく、絵や写真などの視覚的資料や身振り手振りを効果的に使う、聞き手の理解度に合わせて言葉を言い換えたり説明を加えたりする、一方的に話すのではなく聞き手の反応を見ながら話すなどの工夫をすることで、本校ではこれらを目標に繰り返し指導している。
- (3) 留学生のグループを作る際は、担任教師とも相談の上、国籍、性別、日本語力、性格などを考慮し、クラスを越えバランスよく分かれるようにした。小学校を訪問する前からグループごとで活動し、準備の段階からお互いに協力したり、練習し合ったりできるよう配慮した。
- (4) アンケートの回答は「」で抜き出したが、その際小学生、留学生共に意味が変わらない範囲で表記や文法、語彙の一部を訂正して掲載した。
- (5) 2011 年6月26 日に行われた日本語教育学会公開シンポジウム「活気ある社会づくりと日本語教育」においても、パネラーの一人である陳天璽氏（国立民俗学博物館・准教授）より同様の指摘があった。

参考文献

- (1) 横田雅弘 (2005) 「生活実践から学ぶ『授業』」 松岡弘・五味政信編著『開かれた日本語教育の扉』スリーエーネットワーク
- (2) 横田雅弘 (2004) 「第7章 授業実践とその他の教育活動」 横田雅弘・白土悟共著『留学生アドバイジング 学習・生活・心理をいかに支援するか』ナカニシヤ出版
- (3) 林原慎 (2011) 「小学校高学年の国際理解に関する興味・関心に影響を及ぼす要因—児童の異文化接触の経験からの検討—」 異文化間教育学会編『異文化間教育 33』異文化間教育学会
- (4) 森茂岳雄 (2009) 「多文化共生をめざすカリキュラムの開発と実践—学会・学校・教師の取り組み—」 異文化間教育学会編『異文化間教育 30』異文化間教育学会
- (5) 石井恵理子 (2010) 「多文化共生社会形成のために日本語教育は何ができるか」 異文化間教育学会編『異文化間教育 32』異文化間教育学会

資料 1－1 留学生用プリント (1/3)

2010 年度 1 組～3 組 「小学生との交流」

皆さんの行く小学校は 「杉並区立堀之内小学校」

皆さんが交流するのは 小学校 3 年生 62 名

訪問するのは 2 月 8 日（火曜日）午後

学習の目標

- ・小学生との交流を楽しみ、お互いにいい思い出を作る
- ・人の役に立つ喜びを知り、人と触れ合う喜びを感じあう
- ・自国の文化を聞き手わかりやすく紹介することができる
- ・聞き手を飽きさせないように工夫しながら話すことができる
- ・うまくいったこともいかなかったことも含めて、新たな目標を見つける
- ・日本の小学校や子供たちについて知る

当日すること

- ① 小学生からあいさつ
(小さいグループになって 留学生 3、4 人＋小学生 3、4 人)
- ② 小学校の中を小学生たちが案内してくれます。日本の小学校を見てみましょう。
(国の学校との違い。環境に配慮した取り組みなどはあるかな?)
- ③ 皆さんが、小学生に文化を紹介します。
(自分の言いたいことを伝えるだけでなく、相手を飽きさせず、興味を持ってもらえるように工夫しよう!)
- ④ 留学生からあいさつ



そのためには、まず相手を知らう。イメージしよう。

- ①日本の学校制度は？
- | | | | | |
|---------------------|---|------|---|-------|
| 小学校 (6 年間) | } | 義務教育 | } | 公立、私立 |
| →中学校 (3 年間) | | | | |
| →高校 (3 年間) | | | | |
| →専門学校、短期大学、大学→大学院など | | | | |

②みんなの小学生時代は？

- ・小学生の時、どんな生活をしていましたか。どんな教科がありましたか。
得意な教科は？苦手な教科は？授業は何時から何時まででしたか。
- ・休み時間、何をして遊んでいましたか。楽しいな時間は何でしたか。
- ・お弁当や給食はどんなふうに食べましたか。みんなで食べましたか。
- ・校庭（学校のグラウンド）には何がありましたか。校舎にはどんな設備がありましたか。



③小学校3年生ってどんな勉強や遊びをしてるのかな？

一時間割や教科書、学習雑誌などを見てみよう。

これからのスケジュール

1月28日（金）H.R. グループ分け、説明、パネル準備（→宿題）

2月 4日（金）H.R. パネルを持ってくる、クラスで練習

2月 8日（火）12時45分^{きょうむまえ}教務前集合、すぐ出発

→小学校 13時40分～15時15分

→現地解散（^{げんちかいせん}新宿に戻るのは16時ごろになります。）

* いつもより遅く終わります。予定がある人は注意してください。

* 新宿から片道160円かかります。SuicaやPASMOをチャージしておきましょう。

* 小学生が楽しみにしています。休まないでください。遅刻、欠席は必ず連絡を！

さあ、何を^{しょうかい}紹介しましょうか？！画用紙に、自己紹介、簡単なあいさつ、文化紹介を楽しくかこう。

（グループに同じ国の人がいる場合は、テーマが重ならないようにしましょう。）

①自己^{じこしょうかい}紹介（必ず！）

②簡単なあいさつや言葉、文字（必ず！）

資料１－３ 留学生用プリント (3/3)

③その他・・・食べ物、着物（民族衣装）、遊び、観光地、生活、学校、ダンス・・・など

* 写真を貼ったり、絵をかいたり、楽しく仕上げましょう。

* 字は３年生にも読みやすいようにわかりやすく書きましょう。交流の後、小学校にプレゼントします。教室に貼ってくれるかもしれませんが丁寧にきれいに書きましょう。

* ＰＣ教室でカラーコピーすることもできます。必要な人は、紙を取りに来てください。

当日のお願い・・・

・子供たちは留学生のみなさんが来るのを楽しみにしています。当日病気以外の理由で休まないでください。休む人は必ず連絡してください。

・写真を撮るときは相手に撮ってもいいか聞いてから撮ってください。最近、子供に対する犯罪が増えているので、撮った写真はネット上で自由に見られる環境に置かないください。肖像権（許可なく自分の写真を使われない権利）の問題もあります。

・交流するのは授業中ですから食べ物を食べることはできません。もし、あげるなら「うちへ帰ってから、おうちの人に聞いてから食べてね。」と言いましょう。

では、しっかり準備して実りある交流にしましょう！



資料2 留学生へのアンケート

留学生のみなさんへ

★小学生との交流会はどうでしたか。感想を教えてください。



1. 小学校へ行く前はどんな気持ちでしたか。

[]

2. 小学生が学校を案内してくれましたね。どんなことがわかりましたか。どうでしたか。

[]

3. みなさんが国の紹介をしましたね。わかりやすかったですか。小学生は喜んでくれましたか。

[]

4. 子供たちと昔の遊びや「だるまさんが転んだ」などをして遊びましたね。どうでしたか。

[]

5. 日本の小学校や小学生の印象はどうでしたか。

[]

6. 今後、このような学校や地域での交流こうりゅうかい会があれば参加してみたいですか。また、そこでどのようなことをしてみたいと思いますか。

[]

7. その他、感想や小学生へのメッセージなどがあれば書いてください。

[]

ご協力ありがとうございました。

資料3 小学生へのアンケート

堀之内小学校3年生のみなさんへ

★留学生との交流会はどうでしたか。感想を教えてください。



1. 留学生と会う前はどんな気持ちでしたか。

2. みなさんが学校を案内してあげましたね。どうでしたか。

3. 留学生が国の紹介してくれましたね。どうでしたか。

4. またこのような留学生との交流会をしたいですか。

5. 今度交流会をしたら、次はどんなことをしてみたいですか。

6. 留学生のみんなにメッセージや質問はありますか。あれば書いてください。

留学生のみんなにとってもとてもいい経験になりました。本当にありがとうございました！